

講義名	研究演習 (商)		
講義コード	52211	授業形態	開講期・曜日・時限 後期 金曜日 2時限
担当教員	持田 信治	備考	

学部・学科	演習分野
商学部 経営学科	経営戦略とプロジェクト・マネジメント論

プロジェクトをマネジメントする人をPM(プロジェクトマネージャー)と呼ぶ。そこで本ゼミではPMに求められるプロジェクト計画方法とマネジメントの基本を学ぶ。PMは人とお金と設備を駆使して効率的にプロジェクトの実現を図るために、マネジメント能力に加えてプロジェクトの立案能力とリーダーシップ力が求められる。そこで卒業研究では課題の解決方法についてグループディスカッションを行い、課題解決のためのプロジェクトの立案と達成方法の習得を目指す。また論理的な文章の作成練習を行い、演習の成果として卒業論文の作成を行う。本演習は商学部のディプロマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることに寄与する。

主な卒業論文のタイトル

- 1 中古車販売価格の推移に関する分析
- 2 プロ野球選手の球団別の成績と年俸
- 3 好まれる弁当の特徴に関する分析
- 4 中古車を決定する要因に関する価格調査・分析
- 5 一戸建てとマンションの販売価格を決定する要因に関する調査
- 6 学生マンション家賃決定する要因と回帰分析
- 7 コミュニケーション能力の測定方法について
- 8 プロ野球選手の評価方法と年俸について
- 9 数値化1類と重回帰分析を用いた住宅販売価格の推定
- 10 中古車価格を決定する要因について
- 11 賃貸住宅の設備条件と賃料の関係に関する調査
- 12 スマートフォンのアプリケーションゲームに関する調査
- 13 中古バイクにおける色と価格の関係
- 14 中古二輪車の価格決定に関わる要因分析
- 15 回帰分析とクロス分析を用いた若者の志向に関する分析
- 16 数値化1類分析を用いた中古車価格に関する分析
- 17 数値化 類を用いた中古車価格に関する分析

教員よりの要望

知識と技術の利用と問題解決能力について皆さんと一緒に考えるため、課題解決やプロジェクトマネジメントに興味のある学生を求める。

選考方法

- (1) ゼミの目標に関して説明を行った後、面接を行い、ゼミの内容、進め方について納得をしてもらえる学生を希望する。
- (2) 研究演習 から論文の書き方の練習を行うので、演習内容に同意してもらえる学生を希望する。

評価方法

- (1) 出席は講義参加度やRESPON又は復習テストや課題の提出で判断する。
- (2) レポートの提出状況とゼミ中の態度、発言状況を考慮して評価する。
- (3) 授業参加度50点、小テスト又は課題50点で評価する。
- (4) 出席が必須であり、出席の悪い学生や態度の悪い学生はゼミをやめてもらうこともある。

教員英字氏名	研究室
Shinji Mochida	3512

最終学歴
1984年3月25日 九州工業大学 工学部 情報工学科 卒業

学位
博士(学術)

主な研究活動・社会活動・研究業績

- (科研)
(研究テーマ1) ベイジアンネットワークによるソフトウェア要求仕様の確率的リスク評価に関する研究、研究代表者
期間) 2017年4月～2020年3月
金額) 488万円
(研究テーマ2) プロジェクト管理に於けるパフォーマンス測定方法に関する調査研究、研究代表者
期間) 2012年4月～2015年3月
金額) 520万円
(研究テーマ2) エマージング感染症のための教育用プログラムの開発、分担者
2005年～2006年
金額) 320万円
(論文)
システム開発プロジェクトリスクの確率的評価に関する研究、バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌Vol.22, No.1 2020 pp47-57
A Study of Probabilistic risk Evaluation for System Development Project Based on Requirements Analysis and Bayesian estimation 単著 2019年5月 International Journal of BMFSA Vol. 24, No. 1, 2019 pp19-27

趣味・特技
趣味はジョギングやドライブ。ドライブではナビゲーションはほとんど使わず、機械は自動ではなく、手動が好み。

所属
商学部 経営学科 経営戦略コース

所属学会
日本経営システム学会・関西支部幹事
バイオメディカル・ファジィ・システム学会

専門分野

情報処理(特に言語処理)
プロジェクトマネジメント
リスクマネジメント

担当科目

研究演習、研究演習、卒業研究、リスクマネジメント論、技術開発論、品質管理論、オペレーションズリサーチ、マネジメントサイエンス、異文化理解、企業論特別講義(製造業)、経営学科へのいざない

備考

三菱重工業(株)勤務を経て、2005年(平成17年)4月より大学の教員。会社員の時には新製品開発にも携わっており、製品企画、資金調達、開発、製造、販売に関する一連の業務経験を持つ。今後、業務経験を生かして、企業経営と技術開発に関する具体的な問題に関して学生と解決策策定を希望する。製造業に於ける企業経営では製品の企画、技術開発、設計、製造、販売による資金回収のサイクルがあり、このサイクルを如何に効率的に、そして如何に早く回すかが企業経営に於ける1つのプロジェクトとなる。そこで、ゼミではプロジェクト見しく理解できるように具体的に企画書の作成やパソコンを使用したプロジェクト企画の演習を行い、加えて卒業研究では学習の成果として卒業研究の仕上げを目指す。また、企業経営者の話を聞くことにより企業経営と技術開発に於けるポイントの習得を目指す。

実務経験の有無及び活用